

氏名 かこい 梶 ちか子 講師



主な研究テーマ

□ 体育の学習指導要領に基づいた「知識」と「技能」を関連づけた授業づくり

令和元年度の研究内容とその成果

平成29年に中学校学習指導要領が、平成30年に高等学校学習指導要領が告示されました。今回の改訂では、「知識の理解の質を高める」ことが明記されました。保健体育科においても、体育分野の「知識」について、「技能」と関連させた学習が重要であり、具体的な知識の理解にとどまらず、運動実践や生涯スポーツにつながる汎用的な知識の定着も重視することが示されています。授業を通して児童生徒が獲得した「知識」は、「する、みる、支える、知る」等の生涯にわたって運動に親しむ態度の育成や、保健体育科の目標である、「豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力」の獲得に繋がります。

従って、体育分野の学習すべき「技能」に対応した「知識」は、体育授業の実践、保健体育科で獲得を目指す態度や資質・能力の根幹をなすと考えられます。それ故、「技能」と関連させた「知識」を明確にし、それらの「知識」を活用した授業実践モデルを構築することは、体育授業の充実や児童生徒の生涯スポーツに繋がる資質・能力

の育成を目指す上で、大変重要であると考えます。

そのためには、まずは、体育の各運動領域の「知識」を明確にする必要があります。そこで、まずは「ダンス」領域について、「知識」の明確化を目指し、現在、中学校で行われているダンス授業についての実態調査を行い、「知識」と「技能」を関連付けた教材を開発し、その有効性について検討しました。

(1) 全国の中学校で実施されているダンス授業についての実態調査

全国の中学校に勤務する教員を対象として、アンケートを実施しました。有効回答件数は183名でした。分析の結果、大学時にダンス授業を1年以上履修していた教員とそれ以外の教員で、教員自身のダンス実技への自信や、ダンス指導に対する不安の感じ方が、明らかに異なることがわかりました。また、教員対象のダンス実技研修会への参加の有無によっても、同様の結果となりました。さらに、創作ダンスの「即興表現」、現代的なリズムのダンスの「リズムに乗り自由に踊る」という指導内容の実

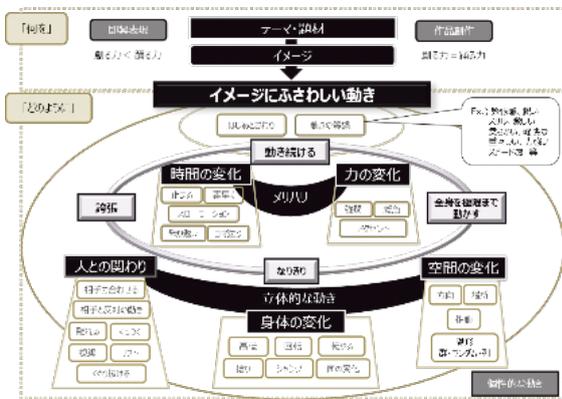


図1 表現系ダンスの技能評価観点構造図

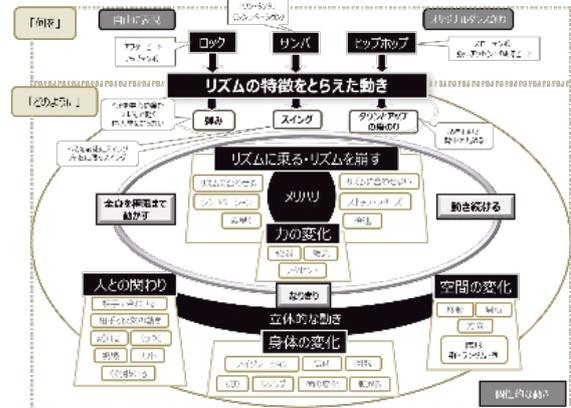


図2 リズム系ダンスの技能評価観点構造図

施状況に差が認められました。

さらに、ダンスの授業経験が浅い教員にインタビュー調査を実施し、ダンス授業実施上の課題を探りました。また、全国各地の成果のあった取組事例に関してもインタビュー調査を実施し、指導実践や指導上の工夫に関して調査を行いました。インタビューを実施した教員は15名でした。その結果、ダンス授業経験が浅い教員、ベテラン教員を問わず、各教員が生徒の実態に応じて、非常に工夫された魅力的な授業が展開されていました。共通の課題点としては、ダンス授業は、「思考・判断」や「態度」の指導・評価は非常に実施しやすい一方で、「知識」と「技能」の指導と評価に課題があること、「わかる」と「できる」をつなぐ指導法や教材に関する情報を現職教員が欲していることがわかりました。また、生徒の動きの参考となる動画や授業で活用できる教材や指導方法に関する情報を手軽に入手したいということ、特に「現代的なリズムのダンス」の指導方法の具体化、教材

例の提示が望まれていました。

(2) ダンスの「知識」と「技能」を関連付けるための教材開発と使用感についての調査研究

中学校において実施率の高い「現代的なリズムのダンス」と「創作ダンス」の「知識」と「技能」を関連づけた授業展開を行うための教材を開発しました(図1, 図2)。K県M市A中学校の「現代的なリズムのダンス」の授業で教材を使用し、成果と課題について考察を行いました。授業を実施した教員らは、この開発教材を授業の後半に活用していましたが、その理由は、頭で動きを「理解」してから、実践する(踊る)のではなく、まずは、生徒たちが、ダンスをある程度「踊れる」=「できる」ようになってから、さらに動きを高めたいというタイミングで動きの要素を提示した方が、より理解が深まるのではないかと判断したからでした。教員らは、ただ動きを工夫しようといっても、生徒たちはどの動きをどうしたら良いかわからないが、この図があった



おかげで、どこをどう工夫すれば良いかのヒントがあり、効率よく動きを高めることができていたと述べていました。また、生徒たちが今まで実践した動きについても、その動きがどのような要素から成り立っていたのかを、あらためて頭で理解することができていたと感じており、生徒アンケートでは、生徒自身が教材は「ダンスの動きを高める上で役立った」と感じ、ダンスの「知識」の習得を実感していました。

これからの研究の展望

今後は、アンケート調査及びインタビュー調査から明らかとなった課題に対応すべく、学習指導要領の内容を踏まえた、具体的な指導方法・教材、「知識」と「技能」を繋ぐ指導方法・教材について開発し、教員対象のダンス研修会や大学の授業で学生に提供するのはもちろんのこと、WEB等を活用して、情報を簡易に入手できるしくみ作りを充実させていきます。